

目的 布の内部に侵入した汚れは表面付近に付着した汚れに比べて落ちにくい。現在の洗浄力評価法は、一般的に布の表面付近の洗浄力や布全体の洗浄力をみるもので、布の内部（厚さ方向）の洗浄力に関する評価法はみうけられない。そこで、今回2つの方法を提案し、その評価力を比較検討した。

方法 洗濯科学協会の湿式人工汚染布を用いて、汚染布を何枚か重ねて周囲を縫って試料とする方法と1枚の汚染布を布に包んで試料とする方法を用いた。これらの試料を台布に縫いつけたものを6～10枚用意し、洗濯に供した。洗浄前後の汚染布の反射率を測定して、洗浄効率を算出した。前者の方法では表面の汚染布の洗浄効率を基準に中の汚染布の洗浄力低下率を求め、後者では布に包まない汚染布の洗浄効率を基準に低下率を求めた。

結果 前者の方法は、布の内部方向への距離と洗浄力低下率との関係もみることはできるが、重ねる汚染布の枚数がかなりの数にならないと、洗浄力低下率が比較的小さく、比較するものの間の差が現われにくい。また、一つの実験に相当な数の汚染布を必要とする。それに対して、後者の方法は包む布の厚さによって低下率そのものはかなり異なるが、酵素の効果や洗剤等の比較実験に用いるには、簡便でかなり効果的である。